

創作特集

だれでもよかった……？

「だれでもよかった」

新年早々、ぎょっとなさったでしょうか。

2008年6月に秋葉原で起こされた無差別殺傷事件。その犯人が口にしたというこの言葉が、近年のいくつもの殺人事件に共通していたことがマスコミにも取り沙汰されました。

そんな「いま」を共有する子どもたち。かけがえのない自分を作る真っ最中の子どもたちにとって、この理不尽な現実の落とす影はいかばかりのものでしょうか。

「だれでもよかった」への抵抗として「……？」を付けます。

そして、同時代を生きる児童文学作家、詩人の胎内を通して作品化した「いま」を、いつかどこかで子どもたちの生を助けるものと信じて、ここに贈ります。

気の長いお年玉です。まずは、おとなの皆さん、ご賞味下さい。